

阿武隈川改修100周年事業

気候変動に対する適応

を考えるシンポジウム

— 気候変動と阿武隈川流域圏の将来像 —



文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム SI-CATでは、気候変動に伴って増加する現象(豪雨や海面上昇)等への地域特性に応じた適応策の検討・策定を支援するため、**信頼性の高い近未来の気候変動予測技術や気候変動影響に対する適応策の効果の評価を可能にする技術開発を進めています。**

直轄改修100周年を迎える阿武隈川流域圏でも、気候変動に伴い増加する現象のリスクにも適応できる対策の強化を考えなければならない状況にあります。

今回、**気候変動に対する適応を考えるシンポジウム**では、気候変動の現状、気候変動より予測されるリスクの最新の研究やリスク対応の現状、適応策の展望を紹介するとともに、行政、研究および流域圏に関係する諸機関が一体となった気候変動に対する適応についての意見交換を行います。シンポジウムを通じて、**社会実装可能な適応策の実現に向けた将来像の設計へ資することのできる提案を目指します。**

昭和61年8月洪水の被害状況



家屋の浸水被害が発生した伊達市梁川町内

平成10年9月台風5号の被害状況



荒川の破堤の様子(日之倉橋上流右岸)

平成14年7月洪水の被害状況



国道4号が浸水、JRに影響した二本松市内

平成23年9月洪水の被害状況



計画高水位を超過した郡山市

日時：2019年7月24日(水) 13:30 ~ 16:45 (13:00 開場)

会場：こむこむ館 わいわいホール 福島県福島市早稲町1-1

入場：無料(会場:300名限定) ※本シンポジウムは、土木学会CPDプログラム認定を受けています (JSCE19-0682 単位数:3.3単位)

第1部 基調講演 (司会：古賀 博久 [福島河川国道事務所])



岡和孝

土井邦裕

風間聡

「気候変動適応法とその取組について」：岡和孝 [国立環境研究所気候変動適応センター 主任研究員]

「福島県における地球温暖化と気象災害への備え」：土井邦裕 [福島放送 気象予報士・防災士]

「気候変動下の水災害とその適応」：風間聡 [東北大学大学院工学研究科 教授]

第2部 パネルディスカッション (司会：川越 清樹 [福島大学共生システム理工学類])

栗原 太郎

話題提供「気候変動を踏まえた治水事業のあり方」：栗原 太郎 [東北地方整備局河川部河川計画課長]

パネルディスカッションテーマ：気候変動に対してどのように適応していくか？

コーディネーター：小浪 尊宏 [福島河川国道事務所長]

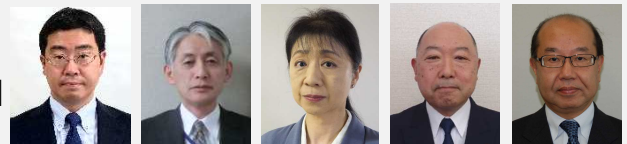
パネリスト：基調講演者

中館 明 [福島地方気象台長]

菅原加代子 [福島県 環境部環境共生課長]

紺野 広幸 [福島市 危機管理室次長]

渡部 義弘 [郡山市 生活環境部長]



小浪 尊宏

中館 明

菅原加代子

紺野 広幸

渡部 義弘

共 催：文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム SI-CAT

阿武隈川改修100周年事業実行委員会

(一社)東北地域づくり協会

土木学会地球環境委員会

後 援：阿武隈川サミット実行委員会

福島大学共生システム理工学類

東北大学大学院工学研究科



東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

問い合わせ先:

福島大学共生システム理工学類 川越清樹

E-mail: kawagoe@sss.fukushima-u.ac.jp

TEL: 024-548-5261